

(2) 中学校第2学年

平成23年度は、東北地方太平洋沖地震の影響等により、全国学力・学習状況調査は抽出調査による実施が見送られ、全て希望利用による実施となった。そのため、全国の学習状況を示すデータについては、平成22年度のデータ〔公立学校〕を使用することとし、質問紙調査において質問項目が同内容のものについては、「全国H22」として結果を載せることとする。ただし、全国学力・学習状況調査の対象学年は中学校第3学年である。

ア 勉強について

(単位：%)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない
勉強すれば、私の好きな仕事につくことに役立つ	本県H17	36.5	38.0	10.5	6.3	8.7
	本県H20	41.1	37.9	9.5	4.8	6.7
	本県H23	49.3	35.2	7.6	2.8	5.1
勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ	本県H17	36.3	41.2	11.9	5.1	5.5
	本県H20	40.4	41.8	9.9	4.1	3.7
	本県H23	51.6	36.5	7.1	2.0	2.7
お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい	本県H17	11.4	24.8	24.9	33.2	5.7
	本県H20	12.5	28.1	25.8	28.4	5.2
	本県H23	18.1	33.2	23.9	20.7	4.1
先生にほめられるよう、勉強したい	本県H17	8.2	22.0	27.5	36.2	6.2
	本県H20	9.2	24.9	28.2	32.0	5.7
	本県H23	15.3	30.9	26.7	22.6	4.5
ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい	本県H17	33.4	40.5	14.7	6.7	4.7
	本県H20	34.2	42.5	14.1	5.6	3.6
	本県H23	44.5	38.4	11.1	3.5	2.5

勉強については、「勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ」の項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が最も高く88.1%となっている。また、「ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の項目においても、肯定的な意見が82.9%であり、今まで以上に前向きに努力したいと思っている生徒が多いことが分かる。

平成20年度の本県調査と比較すると、すべての項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が、5.5ポイントから最大12.1ポイント上回っており、特に、「お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい」、「先生にほめられるよう、勉強したい」の項目における増え方が大きくなっている。

ただ、「お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい」の項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が51.3%、「先生にほめられるよう、勉強したい」の項目の割合が46.2%であるのに対して、「ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の項目の割合が82.9%となっていることを考えると、勉強する動機としては、身近な人からほめ

られたいという承認欲求よりも、自己実現、自己の確立に向けてのものにとらえることができる。

今後も、一人一人の生徒のよさや努力を認めながら、意欲的に勉強に取り組もうとする気持ちや態度を育て、生徒がもっているやる気を学習活動の様々な場面で生かせるように、勉強への具体的な取り組み方法等を助言していくことが大切である。

(単位：%)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分らない ※全国のデータは「その他・無回答」
国語の勉強が好きだ	本県H17	18.6	32.6	27.4	16.9	4.5
	本県H20	19.3	34.3	28.5	14.3	3.6
	本県H23	21.5	35.8	27.3	12.9	2.5
	全国H22	19.8	37.4	29.2	13.4	0.2
国語の勉強は大切だ	本県H17	43.8	38.9	9.5	4.5	3.3
	本県H20	48.7	37.4	8.3	3.4	2.3
	本県H23	55.1	33.2	7.3	2.7	1.7
	全国H22	52.8	36.2	7.8	3.0	0.2
社会の勉強が好きだ	本県H17	24.5	28.5	25.2	18.3	3.6
	本県H20	26.3	32.0	24.7	14.1	2.9
	本県H23	29.1	32.4	23.9	12.6	2.1
社会の勉強は大切だ	本県H17	26.7	36.9	20.1	11.5	4.8
	本県H20	30.7	38.1	18.8	8.6	3.7
	本県H23	37.4	36.6	16.6	6.8	2.6
数学の勉強が好きだ	本県H17	22.9	25.0	24.6	23.8	3.7
	本県H20	23.1	26.6	25.2	21.8	3.4
	本県H23	25.1	29.1	25.4	17.9	2.5
	全国H22	26.8	26.5	24.8	21.4	0.4
数学の勉強は大切だ	本県H17	40.5	35.5	12.9	7.8	3.4
	本県H20	41.7	35.8	12.9	6.7	2.9
	本県H23	51.0	32.1	10.2	4.9	1.9
	全国H22	44.6	34.7	13.8	6.4	0.5
理科の勉強が好きだ	本県H17	27.1	31.7	22.8	15.0	3.4
	本県H20	26.3	33.5	23.6	13.9	2.6
	本県H23	27.8	34.0	23.6	12.5	2.1
理科の勉強は大切だ	本県H17	22.1	32.4	25.2	14.6	5.7
	本県H20	24.9	34.9	23.9	12.0	4.3
	本県H23	32.7	34.5	21.1	8.9	2.8
英語の勉強が好きだ	本県H17	23.9	26.2	24.6	21.1	4.3
	本県H20	21.1	28.5	26.8	19.9	3.7
	本県H23	24.2	30.0	25.9	17.0	2.9
英語の勉強は大切だ	本県H17	44.3	30.0	12.4	9.2	4.1
	本県H20	38.0	32.5	15.6	9.9	3.9
	本県H23	47.8	29.9	12.7	7.3	2.4

「(教科) の勉強が好きだ」という項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は、高い順に、理科61.8%、社会61.5%、国語57.2%、英語54.2%、数学54.2%となっている。(英語、数学の順は、端数の差によるものである。)

平成20年度の本県調査と比較すると、すべての教科において、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が高くなっている。また、5教科の中では、英語が4.6ポイント、数学が4.5ポイントと他の3教科に比べ、上回った割合が若干高くなっている。

「(教科) の勉強は大切だ」という項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は、国語88.3%、数学83.1%、英語77.7%、社会74.0%、理科67.2%となっており、理科が、平成20年度の本県調査と比較すると7.4ポイント上回ったものの、他の教科に比べて低くなっている。

「(教科) の勉強は大切だ」という項目と「(教科) の勉強が好きだ」という項目とを比較すると、同じ教科の項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合がほぼ同程度であるのが理科である。それ以外の教科では、「大切だ」と考えている生徒の割合が、「好きだ」と答えている生徒の割合より、12.5ポイントから最大31.0ポイント上回っている。

このように、勉強することが大切だと考えていながら、その教科を好きだと思えない生徒がみられることから、小学校第5学年と同様に、授業の導入における課題提示や課題把握などの工夫を凝らして生徒の興味・関心を高めるなど、指導の工夫改善を図りながら、分かる喜びやできる喜びが実感できる授業づくりを心がける必要がある。

イ 授業について

(単位：%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半々	分からないことが多い	ほとんど分からない
国語の授業がどの程度分かりますか	本県H17	10.5	48.0	33.1	6.9	1.5
	本県H20	13.2	52.2	28.4	5.1	1.1
	本県H23	13.3	50.2	29.7	5.7	1.0
	全国H22	20.2	49.7		23.4	6.5
社会の授業がどの程度分かりますか	本県H17	14.7	35.7	30.6	15.0	4.1
	本県H20	17.7	40.7	28.1	11.1	2.4
	本県H23	19.7	39.3	28.0	10.7	2.4
数学の授業がどの程度分かりますか	本県H17	18.7	34.8	26.1	15.0	5.5
	本県H20	20.1	35.0	26.7	13.6	4.7
	本県H23	20.9	34.5	27.5	13.3	3.8
	全国H22	28.0	37.7		22.8	10.9
理科の授業がどの程度分かりますか	本県H17	17.2	37.9	29.8	11.8	3.3
	本県H20	17.1	39.4	29.7	10.9	2.9
	本県H23	16.9	37.9	30.9	12.0	2.3
英語の授業がどの程度分かりますか	本県H17	16.4	30.6	27.1	17.7	8.2
	本県H20	15.8	32.5	28.6	16.7	6.3
	本県H23	17.4	32.4	28.6	15.9	5.7

「(教科)の授業がどの程度分かりますか」という質問では、「よく分かる」及び「だいたい分かる」と回答した生徒の割合は、高い順に、国語63.5%、社会59.0%、数学55.4%、理科54.8%、英語49.8%となっている。平成20年度の本県調査と比較すると、「よく分かる」及び「だいたい分かる」と回答した生徒の割合は、社会・数学・英語において上回り、国語・理科において下回っている。

国語・数学において、本県と全国との割合を比較すると、「よく分かる」及び「だいたい分かる」と回答した生徒の割合は、国語で6.4ポイント、数学で10.3ポイント本県が下回っている。

また、「分からないことが多い」及び「ほとんど分からない」と回答した生徒の割合は、英語が一番高く21.6%、次に高いのが数学で17.1%となっている。

前述のとおり、「(教科)の勉強が好きだ」という項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が一番低かったのが数学であり、次に低かったのが英語である。

このことから、授業の理解程度が、その教科の好き嫌いに大きな影響を与えるという傾向が見られるようである。

○ 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
本県H17	21.5	15.4	59.9	31.7	12.8	43.0	28.4
本県H20	15.5	15.4	64.0	34.3	12.3	45.2	24.6
本県H23	16.5	15.6	63.1	32.0	12.5	42.2	24.7

授業の中で分からないことがある時には、「友人にたずねる」と回答した生徒が63.1%、「自分で調べる」が42.2%と高くなっている。

平成20年度の本県調査と比較すると、「自分で調べる」及び「家族にたずねる」と回答した生徒の割合は、それぞれ3.0ポイント、2.3ポイント下回っており、それ以外の回答については、ほぼ同程度であるといえる。

また、授業の中で分からないことがあっても「そのままにしておく」と回答した生徒の割合が24.7% (約4人に1人) となっており、小学校第5学年と比べても11.5ポイント上回っていることから、今後も引き続き、「そのままにしておく」と回答した生徒の学習状況を詳細に把握する必要があると思われる。また、授業において分からないことがあった時に先生にたずねやすい雰囲気づくりに努めたり、互いに教え合える生徒相互の温かい人間関係づくりに努めるとともに、家庭における一人勉強の仕方等を助言していくことが大切である。

ウ 家庭学習について

○ 学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。(単位：%)

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全く、または、ほとんどしない
本県H17	2.4	9.8	27.9	29.1	15.9	14.8
本県H20	2.4	10.6	30.4	30.9	15.3	10.3
本県H23	3.9	16.8	37.4	25.6	10.1	6.1
全国H22	10.2	25.5	30.5	16.7	9.8	7.1

○ ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。(複数回答) (単位：%)

	ほとんど勉強しない	宿題が出れば、宿題をする	試験があれば、それにそなえて勉強する	予習や復習をする	興味があることについて自分で調べたり、たしかめたりする
本県H17	14.6	72.8	58.2	21.4	14.9
本県H20	11.4	76.6	59.8	23.9	15.7
本県H23	9.3	79.0	59.8	26.2	17.0

月曜日から金曜日までの平日に、学校の授業時間以外に、1日に30分以上(「30分以上」には「1時間以上」、「2時間以上」、「3時間以上」も含む)勉強している生徒の割合は83.7%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、9.4ポイント上回っている。さらに、1日に1時間以上(「1時間以上」には、「2時間以上」、「3時間以上」も含む)勉強している生徒は58.1%であり、平成20年度の本県調査を14.7ポイント上回っている。一方、「全く、または、ほとんどしない」と回答した生徒は6.1%であり、平成20年度の本県調査を4.2ポイント下回っている。このことから、平成20年度の本県調査に比べて家庭学習の時間が長くなっていることが分かる。

勉強時間について、本県と全国を比較すると、平日に30分以上勉強している生徒の割合はほぼ同じであるが、2時間以上勉強している生徒は、本県が15.0ポイント下回っており、長時間勉強している生徒の割合が全国に比べて少ないことが分かる。

ふだんの家庭学習の様子については、「ほとんど勉強しない」と回答した生徒は9.3%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、2.1ポイント下回っている。また、「試験があれば、それにそなえて勉強する」以外の「宿題が出れば、宿題をする」、「予習や復習をする」、「興味があることについて自分で調べたり、たしかめたりする」の3項目については、平成20年度の本県調査を上回っている。

本県生徒の家庭学習の様子については、平日に「全く、または、ほとんどしない」生徒の割合は6.1%であり、小学校第5学年に比べて3.0ポイント、家庭で「ほとんど勉強しない」生徒の割合は9.3%であり、小学校第5学年に比べて4.5ポイント、それぞれ上回っている。また、平日に30分以上勉強している生徒の割合についても、小学校第5学年に比べると6.0ポイント下回っていることから、小学校から中学校へと進学したにもかかわらず、家庭学習の時間が増えていないことが分かる。生徒に家庭学習の習慣を身に付けさせるためにも、課題の与え方等を含め、帰宅後の時間の使い方について、家庭との連携を図りながら個に応じたきめ細かな指導を行うことが大切である。

エ 生活について

○ 1日にどのくらいすいみん時間をとりますか。(単位：%)

	10時間以上	9時間以上、10時間より少ない	8時間以上、9時間より少ない	7時間以上、8時間より少ない	6時間以上、7時間より少ない	6時間より少ない
本県H17	2.4	5.5	18.3	29.7	30.3	13.8
本県H20	2.1	4.7	16.7	31.9	31.4	13.1
本県H23	2.0	4.9	18.8	34.6	28.8	10.9
全国H22	1.2	4.4	18.8	38.2	28.3	8.9

○ 学校に行く前に朝食をとりますか。

(単位：%)

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全く、または、ほとんどとらない
本県H17	72.7	18.0	5.8	3.4
本県H20	78.2	14.8	4.4	2.6
本県H23	81.2	12.5	3.9	2.3
全国H22	83.5	9.8	4.8	1.9

月曜日から金曜日までの平日に、「1日にどのくらいすいみん時間をとりますか」という質問では、「7時間以上」（「7時間以上」には「8時間以上」、「9時間以上」、「10時間以上」も含む）と回答した生徒の割合は60.3%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、4.9ポイント上回っているが、全国と比較すると、2.3ポイント下回っている。

「学校に行く前に朝食をとりますか」という質問では、「必ずとる」と回答した生徒は81.2%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、3.0ポイント上回っている。

1日の睡眠時間及び朝食の摂取状況について、本県と全国を比較すると、7時間以上睡眠時間をとっている生徒の割合及び朝食を必ずとる生徒の割合において、それぞれ全国を下回っていることが分かる。

過去の全国調査によって明らかになった主な事項として、家庭での生活・学習習慣と学力との関係等が挙げられており、「家で学校の宿題をしている」といった学習習慣以外に、「朝食を毎日食べている」、「学校に持って行くものを前日か、その日の朝に確かめている」などの基本的な生活習慣と学力との相関が比較的強いという結果が明らかとなっている。

今後も引き続き、家庭や地域社会と連携を図りながら、家庭における生徒の望ましい生活習慣の形成を支援していく取り組みが必要であると考えられる。

○ 1日にどのくらいテレビやビデオ・DVD等を見ていますか。

(単位：%)

	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	全く、または、ほとんど見ていない
本県H23	17.9	18.4	26.6	24.1	9.8	3.1
全国H22	17.7	18.8	27.1	23.7	11.2	1.4

○ 携帯電話を使って通話やメールをしていますか。

(単位：%)

	ほぼ毎日している	ときどきしている	全く、または、ほとんどしていない	携帯電話を持っていない
本県H23	13.7	13.6	4.6	68.1
全国H22	30.3	22.5	5.3	41.8

今年度、新たな質問として、「テレビやビデオ・DVD等の視聴時間」及び「携帯電話の使用頻度」に係る項目を設定した。

月曜日から金曜日までの平日に、「1日にどのくらいテレビやビデオ・DVD等を見ていますか」

という質問では、「2時間以上」（「2時間以上」には「4時間以上」、「3時間以上」も含む）と回答した生徒の割合は62.9%であり、全国調査と比較すると、0.7ポイント下回っている。

「携帯電話を使って通話やメールをしていますか」という質問では、「ほぼ毎日している」と回答した生徒は13.7%であり、全国と比較すると16.6ポイント下回っている。

テレビ等の視聴時間について、本県と全国を比較すると、全国においては小学校から中学校へと進学することによりテレビ等の視聴時間が短くなる傾向にあることに対し、本県は逆に視聴時間が長くなる傾向にあることが分かる。

中学校においても、小学校と同様に、節度あるテレビ等の視聴に関する指導はもとより、家庭との連携を図りながら、帰宅後の時間の有効活用に対する支援も必要であると考えられる。また、携帯電話の使用については、中学生の約3人に1人が所持しているという状況を考えると、情報社会におけるモラルやマナーの向上を含め、情報手段の適切かつ、主体的、積極的な活用の仕方や有害な情報に接したときの対処方法などについて指導・啓発する情報モラル教育を推進していくことが大切である。

オ 読書について

○ 学校の授業以外で1日にだいたいどのくらい読書をしますか。 (単位：%)

	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全く、または、ほとんどしない
本県H17	8.0	11.1	20.7	12.4	47.8
本県H20	8.6	13.2	23.8	11.6	42.7
本県H23	10.1	16.7	22.2	11.3	39.7
全国H22	12.8	14.5	21.5	12.9	38.1

月曜日から金曜日までの平日に、学校の授業以外で1日に10分以上（「10分以上」には「30分以上」、「1時間以上」も含む）読書をする生徒の割合は49.0%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、3.4ポイント上回っている。さらに、1日に30分以上（「30分以上」には「1時間以上」も含む）読書をする生徒は26.8%であり、平成20年度の本県調査を5.0ポイント上回っている。一方、「全く、または、ほとんどしない」と回答した生徒は39.7%であり、平成20年度の本県調査を3.0ポイント下回っている。

読書時間について、本県と全国を比較すると、1日に10分以上読書をする生徒の割合も30分以上読書する生徒の割合も、ほぼ同じである。

過去の本県調査に比べて、読書に親しむ生徒の割合が少しずつ高くなってきていることから、今後も引き続き、生徒に読書の楽しさを味わわせるとともに、読書活動が生活の中で役に立つということを実感させることが大切である。また、読書を生活に役立てようとする態度や読書を通して自己を向上させようとする態度を育て、望ましい読書習慣の形成を図るために、「朝の読書」や読み聞かせ、ブックトークなどの読書活動を日常の教育活動に取り入れたり、読書の時間の確保や読書の機会の充実を図ったりすることが大切である。

カ 進学について

○ 将来どの学校まで進みたいですか。

(単位：%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校まで	分からない
本県H17	0.8	30.1	8.3	36.0	8.4	16.5
本県H20	0.7	31.3	7.8	36.8	7.1	16.4
本県H23	0.4	29.9	7.5	40.7	6.1	15.5

進学については、高等学校以上（「高等学校」以上には、「その他の学校」も含む）の学校まで進みたいと考えている生徒の割合は84.2%である。その内訳を見ると、高校まで進みたいと考えている生徒が29.9%であるのに対し、短大・大学までが48.2%となっており、短大・大学までの方が18.3ポイント上回っている。また、大学まで進みたいと考えている生徒は40.7%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、3.9ポイント上回っている。このことから、より上の学校まで進みたいと思っている生徒が増えていることが分かる。

ただ、中学校段階で、進学にかかわる自分の進路について「分からない」と回答した生徒の割合が、15.5%とまだまだ多い状況にあることから、今後は、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、働く意義や目的を考えさせながら、望ましい勤労観・職業観を身に付けることができるように、キャリア教育の推進を図っていくことが大切である。

(3) まとめ

勉強については、今まで以上に前向きに努力したいと思っている児童生徒が多いことから、今後も、児童生徒一人一人のよさや努力を認め、意欲的に勉強に取り組もうとする気持ちや態度を育てることが大切である。また、児童生徒のやる気を学校生活の様々な場面で生かすことができるように、何をどうすればよいのか具体的に考えさせる機会を与え、必要に応じて個に応じたきめ細かな助言又は援助を行うことが大切である。

授業については、小学校・中学校ともに教科によって理解の程度に差が見られ、高い教科と低い教科とでは、小学校で13.8ポイント、中学校で13.7ポイント開きがある。教科の特性もあるが、児童生徒の興味・関心を大切に、予想されるつまづき等に配慮した授業実践を進めていくことが大切である。また、授業の中で分からないことがあってもそのまましておく児童生徒の割合が、平成15年度の本県調査から今年度の調査まで、あまり変わっていないことから、分からないことがあった時には気軽に先生にたずねることができるように、児童生徒と教師の温かな人間関係づくりに努めることも大切である。

家庭学習については、質問紙調査を実施するたびに小学校・中学校ともに勉強時間が長くなってきており、30分以上勉強している児童生徒の割合は、平成15年度の本県調査と比較すると、今年度は小学校が22.0ポイント、中学校が21.2ポイント上回っており、改善傾向が見られる。ただ、全国と比較すると、長時間（1時間以上）勉強している児童生徒の割合は下回り、家庭学習をほとんどしていない児童生徒の割合は上回っている。家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣が身に付くように児童生徒に対する個別の配慮が必要であるとともに、家庭学習の内容の充実及び質的向上を目指した指導の場の設定が大切である。

生活については、適切な睡眠時間の確保及び毎日の朝食摂取が、生活リズムの安定、学力向上及び健康増進につながることから、今後も引き続き、児童生徒の基本的な生活習慣の定着状況について定期的に評価を実施するとともに、家庭との連携を図りながら、帰宅後の過ごし方について指導することが大切である。また、テレビ等の視聴時間が長くなることによって引き起こされる様々な弊害について児童生徒に考えさせる場の設定や、携帯電話依存による生活習慣の乱れ、インターネット上の違法・有害情報サイトのトラブルに児童生徒が巻き込まれるケースなどについて理解させ、発達の段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進が必要である。

読書については、前述した勉強時間と同様に、調査を実施するたびに小学校・中学校ともに読書時間が長くなってきており、10分以上読書している児童生徒の割合は、平成15年度の本県調査と比較すると、今年度は小学校が8.0ポイント、中学校が13.0ポイント上回っており、改善傾向が見られる。ただ、毎回の調査で少しずつ改善傾向が見られるとはいえ、依然として読書をほとんどしない児童生徒が小学校で22.5%、中学校で39.7%の割合を占めていることから、望ましい読書習慣の形成を図るための取り組みや工夫が必要である。

進学については、小学校・中学校ともに、より上の学校へ進みたいと考えている児童生徒が多くなっていることから、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせるため、学校の特色や地域の実情を踏まえながら、発達の段階を考慮したキャリア教育をそれぞれの学校で推進していくことが必要である。